



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月14日

上場会社名 株式会社セキュアヴェイル 上場取引所 東
コード番号 3042 URL <https://www.secuavail.com>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 米今 政臣
問合せ先責任者 （役職名） 経営企画本部マネージャ （氏名） 林 泰弘 TEL 06-6136-0026
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	636	36.9	47	—	48	—	48	—
2025年3月期中間期	465	△8.9	△52	—	△51	—	△53	—

（注）包括利益 2026年3月期中間期 52百万円 （－％） 2025年3月期中間期 △54百万円 （－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	6.31	6.30
2025年3月期中間期	△7.01	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	1,566	1,222	78.0
2025年3月期	1,552	1,186	76.4

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 1,222百万円 2025年3月期 1,185百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	5.00	5.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,320	14.9	109	210.8	109	192.4	75	76.9	9.85

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名)ー 除外 ー社 (社名)ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	7,690,000株	2025年3月期	7,690,000株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年3月期中間期	448株	2025年3月期	448株
-------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数 (中間期)

2026年3月期中間期	7,689,552株	2025年3月期中間期	7,689,552株
-------------	------------	-------------	------------

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・業績予想の前提条件及びその他関連する事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におきまして、ランサムウェア攻撃、標的型攻撃、DDoS攻撃などが相変わらず国内外で多数観測されました。加えて、AI関連技術の著しい進展により、サイバー攻撃の手法が一層高度化・巧妙化するなど、攻撃・防御の双方でAI技術が利用される傾向が強まっています。AIシステムの悪用や認知領域への影響も懸念されるなど、サイバー空間における脅威は多様化し、その深刻度を増しています。

また、国内においては、脆弱性情報の取扱いや初動対応の重要性を再確認する動きが広がり、政府および関係機関から「情報セキュリティ早期警戒パートナーシップガイドライン」に即した対応の徹底が呼びかけられました。こうした流れを受け、企業間での情報共有や迅速な対処体制の整備を求める機運が高まっています。

一方で、DXの進展により業務システムの統合やクラウド活用が加速する中、セキュリティリスクは新たな局面を迎えています。攻撃の巧妙化に加え、被害がサプライチェーンや事業継続にまで及ぶ事例がみられるなど、経営課題としての対応が求められています。最近では国内代表的な大手飲料メーカーやオフィス用品の通販会社がランサムウェアの被害を受け、酒類や飲料、商品の受注や出荷の停止、新製品の販売延期に追い込まれました。

このような状況下、当社グループはネットワーク社会におけるインフラの担い手であり、お客様のシステムセキュリティ確保の上、「安全」で「お役に立てるサービス」を提供する会社として、末永くお付き合いいただける使命感とその重要性は高まっていると感じております。

これからも、当社グループは、ITセキュリティ専業で、創業時からの独自開発のセキュリティ監視の運用基盤(プログラム)と24時間365日のセキュリティ監視(SOC)サービス、セキュリティ人材育成派遣のビジネス領域に置いて、社会に貢献していく所存です。

当中間連結会計期間において、当社グループは、引き続き、既存顧客との契約更新や新規パートナー企業の開拓に加え、医療業界をはじめ、顧客の状況やニーズに合わせた様々な企画商品のご提案をしてきました。またセキュリティ運用監視基盤(ソフトウェア)においても、AIを利用した製品リリースもあり、これらの商談成果も出てきました。

以上の結果、当中間連結会計期間における経営成績は、売上高636,943千円(前年同期比36.9%増)、営業利益47,412千円(前年同期は52,337千円の営業損失)となりました。経常利益は、48,598千円(前年同期は51,461千円の経常損失)となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は48,537千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失53,883千円)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

(a) 情報セキュリティ事業

当社グループの主力である情報セキュリティ事業につきましては、ストック型サービスの契約更新、新規案件の獲得、SaaS形式のセキュリティソフトウェア「LogStare」シリーズの拡販に注力した結果、売上高は516,411千円(前年同期比40.8%増)となりました。セグメント利益につきましては、112,299千円(前年同期はセグメント損失2,033千円)となりました。

(b) 人材サービス事業

人材サービス事業につきましては、既存顧客への要員追加により、売上高は120,531千円(前年同期比22.2%増)、セグメント利益は、11,524千円(前年同期比3.0%減)となりました。

(用語説明)

ランサムウェア攻撃

侵入したシステムにおいて、コンピュータのファイルを不正に暗号化し、解除のために身代金を要求したり、「機密情報を公開する」と脅したりする。

DX (Digital Transformation デジタルトランスフォーメーション)

企業がAI、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術を活用して、業務フローの改善や新たなビジネスモデルの創出だけでなく、ビジネスや社会、組織、企業文化などを根本的に変革すること、および変革そのものを指し、企業の競争優位性を確立することを目指します。

SaaS (Software as a Service サービスorサーズ)

利用者がソフトウェアを導入するのではなく、提供者のサーバー内にあるソフトウェアをインターネット等で利用するサービス。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は1,416,814千円となり、前連結会計年度末に比べ11,459千円の減少となりました。これは主に、その他のうちの未収還付法人税等が52,252千円、前渡金が13,382千円減少し、現金及び預金が42,138千円増加したことによるものであります。

固定資産は149,650千円となり、前連結会計年度末に比べ25,655千円増加いたしました。これは主に、リース資産が8,125千円、投資有価証券が4,658千円、繰延税金資産が7,580千円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は1,566,465千円となり、前連結会計年度末に比べ14,196千円増加いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は324,937千円となり、前連結会計年度末に比べ28,421千円減少いたしました。これは主に、前受金が54,325千円減少し、未払費用が9,463千円、未払法人税等が15,309千円増加したことによるものであります。

固定負債は18,773千円となり、前連結会計年度末に比べ5,945千円増加いたしました。これは主に、リース債務が6,666千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は343,711千円となり、前連結会計年度末に比べ22,475千円減少いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は1,222,753千円となり、前連結会計年度末に比べ36,671千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が33,158千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.0%（前連結会計年度末は76.4%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月14日発表の業績予想を変更しておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,112,261	1,154,400
売掛金	196,442	199,012
原材料及び貯蔵品	1,035	3,098
前渡金	48,940	35,557
前払費用	16,816	23,629
その他	52,777	1,116
流動資産合計	1,428,274	1,416,814
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	—	939
工具、器具及び備品(純額)	4,525	5,337
リース資産(純額)	—	8,125
有形固定資産合計	4,525	14,402
投資その他の資産		
投資有価証券	59,397	64,056
差入保証金	45,042	43,612
繰延税金資産	15,029	22,609
その他	—	4,969
投資その他の資産合計	119,469	135,247
固定資産合計	123,994	149,650
資産合計	1,552,268	1,566,465
負債の部		
流動負債		
買掛金	21,652	19,285
リース債務	2,269	2,247
未払金	9,954	16,452
未払費用	43,074	52,537
未払法人税等	1,974	17,283
未払消費税等	25,325	21,419
前受金	221,485	167,159
預り金	8,986	8,006
賞与引当金	18,636	20,364
その他	—	181
流動負債合計	353,359	324,937
固定負債		
リース債務	—	6,666
資産除去債務	8,024	8,024
退職給付に係る負債	4,802	4,082
固定負債合計	12,827	18,773
負債合計	366,186	343,711
純資産の部		
株主資本		
資本金	627,580	627,580
資本剰余金	323,782	323,782
利益剰余金	234,766	267,924
自己株式	△123	△123
株主資本合計	1,186,005	1,219,164
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△203	3,309
その他の包括利益累計額合計	△203	3,309
新株予約権	280	280
純資産合計	1,186,082	1,222,753
負債純資産合計	1,552,268	1,566,465

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	465,396	636,943
売上原価	305,903	349,676
売上総利益	159,493	287,267
販売費及び一般管理費	211,830	239,854
営業利益又は営業損失(△)	△52,337	47,412
営業外収益		
受取利息	141	885
受取配当金	7	18
補助金収入	804	—
雑収入	0	434
営業外収益合計	953	1,338
営業外費用		
支払利息	76	41
雑損失	0	110
営業外費用合計	77	151
経常利益又は経常損失(△)	△51,461	48,598
特別利益		
固定資産売却益	—	1,590
新株予約権戻入益	600	—
特別利益合計	600	1,590
特別損失		
減損損失	1,485	—
特別損失合計	1,485	—
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△52,347	50,189
法人税、住民税及び事業税	1,857	10,754
法人税等調整額	△321	△9,102
法人税等合計	1,536	1,651
中間純利益又は中間純損失(△)	△53,883	48,537
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△53,883	48,537

(中間連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△53,883	48,537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△140	3,512
その他の包括利益合計	△140	3,512
中間包括利益	△54,024	52,050
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△54,024	52,050
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△52,347	50,189
減価償却費	—	1,772
減損損失	1,485	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	273	△720
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,362	1,727
受取利息及び受取配当金	△148	△903
支払利息	76	41
新株予約権戻入益	△600	—
売上債権の増減額(△は増加)	28,186	△2,569
棚卸資産の増減額(△は増加)	—	△2,063
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,995	△2,366
前受金の増減額(△は減少)	14,004	△54,325
固定資産売却益	—	△1,590
投資事業組合運用損益(△は益)	—	109
その他	△26,824	17,854
小計	△38,525	7,155
利息及び配当金の受取額	148	903
利息の支払額	△76	△41
法人税等の還付額	—	55,287
法人税等の支払額	△114,847	△1,877
営業活動によるキャッシュ・フロー	△153,301	61,428
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△320	△3,005
投資有価証券の取得による支出	△10,000	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,320	△3,005
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△1,014	△904
配当金の支払額	—	△15,379
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,014	△16,283
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△164,636	42,138
現金及び現金同等物の期首残高	1,200,740	1,112,261
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,036,103	1,154,400

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I. 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間 連結損益計算書 計上額(注) 2
	情報セキュリティ 事業	人材サービス 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	366,768	98,628	465,396	—	465,396
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	366,768	98,628	465,396	—	465,396
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	19,835	19,835	△19,835	—
計	366,768	118,463	485,232	△19,835	465,396
セグメント利益又は損失(△)	△2,033	11,880	9,846	△62,184	△52,337

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△62,184千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当中間連結会計期間において、情報セキュリティ事業に係る減損損失1,485千円を計上しております。

Ⅱ. 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間 連結損益計算書 計上額(注) 2
	情報セキュリティ 事業	人材サービス 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	516,411	120,531	636,943	—	636,943
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	516,411	120,531	636,943	—	636,943
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	20,545	20,545	△20,545	—
計	516,411	141,076	657,488	△20,545	636,943
セグメント利益	112,299	11,524	123,823	△76,410	47,412

(注) 1 セグメント利益の調整額△76,410千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。